

第 1 章

運動部活動の意義と今後の在り方



1 運動部活動の意義

運動部活動は、学校教育活動の一環として行われており、スポーツに興味と関心をもつ同好の生徒によって自主的に組織され、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、スポーツの楽しさや喜びを味わい、豊かな学校生活を経験する活動であるとともに、体力の向上や健康の増進にも極めて効果的な活動である。

また、運動部活動は、学級や学年を離れた集団の中で、生徒たちの自発的・自主的な活動を基盤に、共通の目標に向かって互いに認め合い、励まし合い、協力し合い、高め合いながら、生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感などを育成するとともに、仲間や顧問等との密接な触れ合いの場として大きな意義を有するものである。

なお、学習指導要領では、運動部活動について次のように記載されている。（次頁参照）

運動部活動の意義

1 豊かな人間性や社会性の育成

問題を解決する能力や自らを律しつつ、他人を認め協調する心を養う。

友情、連帯感、スポーツマンシップ、思いやり、集団生活のルールを身に付ける。

2 明るく充実した学校生活の展開

自己の存在意義や成長を確認できる場の提供により、学校を明るく活性化させ、母校・郷土愛をはぐくみ、学校全体の一体感を高める。

生徒や保護者の学校への信頼感を高める。

顧問と生徒、生徒同士の触れ合いの中から、授業とは異なる生徒理解や人間関係を深める。

3 体力の向上と健康の保持増進

4 生涯スポーツに親しむための得意なスポーツの基礎づくり

5 競技力の向上、スポーツの普及・発展

6 心身のリフレッシュ及び喜びや生きがいの場

参考資料

- ◇平成20年3月告示の中学校学習指導要領の総則
- ◇平成21年3月告示の高等学校学習指導要領の総則
- ◇平成21年3月告示の特別支援学校学習指導要領の総則

生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、地域や学校の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行うようにすること。

学習指導要領の総則に「学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。」と規定されたことは、運動部の活動が主として保健体育科の目標を踏まえた活動であり、生徒の「生きる力」の育成につながる活動であることを示している。



2 運動部活動の課題

個々の生徒が今以上の技能を高め、記録に挑戦しようとすることは自然なことであり、そのことを学校は支援しなければならないが、問題となるのは、指導者が大会で勝つことのみを重視し過重な練習を強いたり、生徒のバランスのとれた生活や成長に支障を来している場合である。

また、生徒、保護者、地域、競技団体などの意識や価値観も多様化してきており、運動部活動を取り巻く環境にもさまざまな問題が存在している。

運動部活動の課題

1 勝利至上主義に偏った指導

バランスのとれた生活への支障やスポーツ障害を引き起こすほどの過度な練習量（時間）

体罰やセクハラ等につながる誤った指導

2 顧問の種目に対する専門的知識、指導技術の不足

指導指針、活動目標、活動計画が不明確

安全管理と事故防止に対する対策や知識の不足

3 生徒のニーズに応えきれていない活動や指導

「競技志向」と「楽しみ志向」の生徒への指導

経験者と未経験者の技術の差がある指導方法

4 外部指導者の活用による問題

学校内での位置付けが不明確

外部指導者と顧問の指導方針や指導方法の違いによる問題

5 保護者や地域の期待の多様性に応えられていない活動

活動内容の情報発信不足による閉鎖性

6 運動部活動への参加生徒数減少

運動部で活動する魅力や意義の理解不足による生徒の活動意欲の低下

指導の 金言

ある人に
魚を一匹与えれば、
その人は一食を得る。
魚の捕り方を教えれば、
その人は生涯食える

管仲（中国）

管仲は春秋時代、斉の宰相。この金言は、管仲の思想をまとめたといわれる『管子』に収められた一言。『管子』の中にはこの他にも「一つの手間で、一の利益を得るなら穀物を植える、十の利益を得るには木を育てる、百の利益を得るには人を育てる事だ」と、人材養成の重要性を説くものが多い。

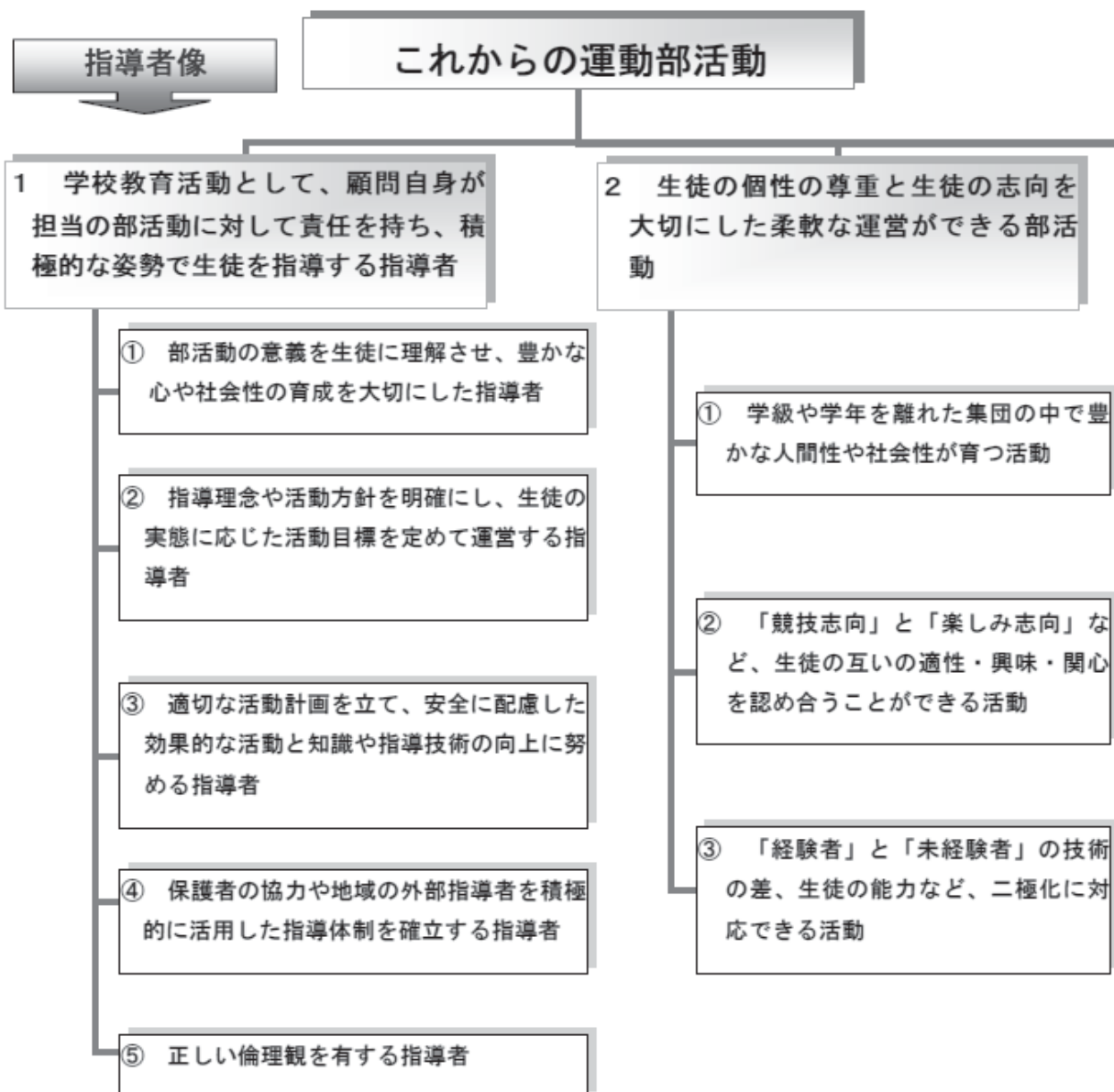
スポーツは競技（コンペティション）である以上、指導者が勝利を目指した指導を行うことは当然。ただ勝利を求めるあまり指導を急ぎ、答えを与えてしまったとしたら、結局は競技者が生涯食える（＝スポーツに親しむ）指導にはならないだろう。

管仲がスポーツ競技者の育成を念頭に置いていたはずはもちろん無いが、この言葉がスポーツ指導者に示唆するものは重い。管仲が仕えた斉の桓公は凡庸といわれながら、春秋時代最初の覇者となった。今も昔も指導者の重要性は変わらないのである。

3 これからの運動部活動

生徒の自主性を尊重する必要があるが、生徒に任せすぎたり、勝つことのみを目指したりした活動にならないよう留意する必要もある。

このため、運動部活動の意義が十分発揮されるよう、生徒の個性の尊重と柔軟な運営に留意したり、休養日や練習時間を適切に設定したりするなど、生徒の能力・適性、興味・関心等に
応じつつ、健康・安全に留意し適切な活動が行われるよう配慮して指導することが必要である。





あるべき部活動の「かたち」

3 生徒の生活とバランスの取れた部活動

① 休養日や練習時間を適切に設定し、スポーツ障害の予防等に配慮した活動

② 勉強と部活動の両立ができる活動

③ 事故の防止に努め、生徒の安全が確保された活動

4 みんなで支える開かれた部活動

① 保護者や地域の人々に活動内容等の情報発信をする活動

② 外部指導者の活用など、保護者や地域社会の支援、協力を受ける活動



3年生最後の夏



平成22年度 重信中学校3年 野中友貴

3年生最後の夏、それは全国中学校ソフトボール大会でした。僕は、重信中学校ソフトボール部主将としてこの1年頑張ってきました。

全国大会までの道のりは、とても厳しいものでしたが、何とかたどり着きました。この、全国大会の目標は悔いの残らないように全力を尽くして戦うことでした。1試合目の対戦相手は、去年の準優勝チームの群馬県新島学園でした。去年の全国大会のメンバーの中には、1、2年生が14人も入っていて、かなりの強豪チームでした。試合が始まると、チーム一丸となって戦いました。最終回裏の重中の攻撃の時、3点の差で負けていましたが、相手ピッチャーの疲れや守備でのミスが重なり2点を奪い、満塁のチャンスで1本が出て逆転サヨナラで勝つことができました。そのときには、とてもうれしくて、みんなで思いっきり喜びました。

2試合目の対戦相手は、郡山市立郡山第六中学校でした。この試合では、新島学園戦の勢いを保ったまま臨むことができました。その結果もあり、連打が続き8点奪いましたが、2点奪われたあと1点でコールドゲームでしたが奪えず、結局8対2で勝つことができました。去年もここまで来て決勝までいけなかったのが、今年こそは決勝にいかうとみんなで意気込んでいました。

準決勝の対戦相手は、大阪府東大阪市立花園中学校でした。とうとうここまで来たので何が何でも勝とうと全力を尽くしました。1回表の重中の攻撃で1点奪えたのでこのままいくぞと思ったけど、その裏に連打を浴びて五点奪われ、次の回も五点奪われ、終わってみると1対11の五回コールド負けに終わりました。これで、全国3位になりました。銅メダルをもらった時は、うれしかったけど、やっぱり全国の壁は厚いなと実感しました。

最後の夏を最高のメンバーとともに戦ってきて、銅メダルをもらえたことは、とても誇りに思います。3年生最後の夏がこんなにもいい終わり方だったので悔いはありません。来年のメンバーには、僕たちがいけなかった決勝の舞台へいてもらいたいと思います。顧問の先生、そして保護者の方、3年間ありがとうございました。

